

北海道博物館

年度計画

平成 27 年度

目 次

1	資料の収集・保存	
(1)	資料の収集	1
(2)	収蔵機能の強化	1
(3)	資料保存環境の維持	1
(4)	収蔵資料の利用への対応	1
2	展示	
(1)	総合展示室の運営	1
(2)	企画展示の開催	1
3	調査研究	
(1)	調査研究の推進	1
(2)	アイヌ文化に関わる調査研究の重点化	2
4	北海道開拓の村の整備	2
5	教育普及事業	
(1)	魅力あるイベントの充実	2
(2)	教材の充実	2
(3)	はっけん広場の運営	2
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	3
7	道民参加型組織の整備	2
8	施設及び周辺環境の整備	
(1)	館内施設の整備と活用	2
(2)	周辺環境の整備	2
(3)	野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	3
9	広報	
(1)	広報活動の強化	3
(2)	赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携	3
10	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	3
11	博物館ネットワーク	
(1)	各種博物館団体との連携	4
(2)	博物館交流の促進	4
12	情報発信	
(1)	アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信	4
(2)	ICTなどを活用した情報発信機能の強化	4
(3)	道民の「知りたい」気持ちへの支援	4
13	人材育成機能の強化	
(1)	博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	5
(2)	外来研究員の受入	5
(3)	派遣研修	5
14	研究成果の発信と社会貢献	
(1)	学術刊行物などの刊行	5
(2)	学会への発信	5
(3)	職員の対外貢献	5
(4)	外部機関との事業連携	5
(5)	道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献	5

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- ・ 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。
- ・ 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録する。
- ・ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。

(2) 収蔵機能の強化

- ・ 収蔵資料データベースのシステム更新を実施し、旧開拓記念館及び旧アイヌ民族文化研究センターの情報システムを一元化する作業を進める。
- ・ 災害発生時における被災資料の受入れや保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。
- ・ 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。

(3) 資料保存環境の維持

- ・ 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

(4) 収蔵資料の利用への対応

- ・ 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。

2 展示

(1) 総合展示室の運営

- ・ 総合展示の定期的な入替えを実施する。
- ・ 総合展示や施設の概要を紹介する日本語版及び英語版のガイドブックを作成する。
- ・ 障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。
- ・ 総合展示のメンテナンスに努める。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 27 年度）
総合展示室利用者数	72,400 人
うち外国人利用者数	3,800 人

(2) 企画展示の開催

- ・ 民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。
- ・ 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。
- ・ 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 27 年度）
特別展示室利用者数	57,600 人

3 調査研究

(1) 調査研究の推進

- ・ 北海道の自然・歴史・文化について、新たな基礎的及び学際的な調査研究プロジェクトを立ち上げ、調査を実施する。
- ・ 道民が調査協力員などの形で調査研究に参加できる体制を構築し、その運営を軌道に乗せる。

- ・ 道民の自主的な研究活動や研究発表の場の整備について検討を進める。
- ・ サハリン州郷土博物館との5年間の共同研究事業についての覚書に調印し、交流を深めるとともに共同研究を推進する。
- ・ ロイヤル・アルバータ博物館との友好関係を深め、共同研究事業についての覚書に調印する。
- ・ 外部講師の招へいも含めた館内研修会の開催などにより、職員の研究資質の向上を図る。

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

- ・ 総合博物館としての役割・視点をふまえたアイヌ文化に関わる調査研究課題を設定し、実施する。
- ・ アイヌ文化の継承・振興に資する学際的共同研究課題を策定し、道内外の関係機関や研究者とも連携した効果的な実施計画を定める。
- ・ 調査研究の成果を活用した企画展示並びに巡回展を開催する。

4 北海道開拓の村の整備

- ・ 老朽化が進んでいる歴史的建造物の補修工事を実施する。
- ・ 旧北海中学校など、建造物内の展示の充実に取り組む。

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

- ・ 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。
- ・ 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。
- ・ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる講座・講演会を実施する。
- ・ 「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。
- ・ 「ミュージアムフェスティバル」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成27年度）
イベント参加者数	3,200人

(2) 教材の充実

- ・ 「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発についての取組を進める。
- ・ 来館者が総合展示の内容について理解を深めることができるように、多言語に対応した音声解説サービスを実施する。また、その充実についての取組を進める。
- ・ 総合展示や施設の概要を紹介する日本語版及び英語版のガイドブックを作成する。

(3) はっけん広場の運営

- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。
- ・ はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。
- ・ 子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。
- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を進める。
- ・ 学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施する。

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値 (平成 27 年度)
はっけん広場利用者数	20,000 人

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。

7 道民参加型組織の整備

- 道民参加の促進に向け、ボランティア組織や博物館を支援する組織の創設に取り組むとともに、道民の自主的なサークル活動の支援を行う。

8 施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

- 休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備の充実に向けた取組を進める。
- オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。
- 記念ホール、講堂、グランドホールなどの一層の活用に向けた取組を進める。

(2) 周辺環境の整備

- 公共交通機関でのアクセス向上に向けた取組を進める。
- トータルデザインに基づいた野幌森林公園内のサインの統一化に努める。
- 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた検討を進める。

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

- ホームページの運営など一体的な広報活動などをはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。

9 広報

(1) 広報活動の強化

- あらゆる媒体を活用した広報活動を展開する。
- 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークの道民への浸透を図り、積極的に広報媒体やサインなどに活用する。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値 (平成 27 年度)
ホームページのアクセス数(トップページ)	79,000 件

(2) 赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

- 「北海道博物館赤れんがサテライト」の展示を誘導力のある展示に改修するとともに、道内博物館の情報も含めた情報発信機能の強化に積極的に取り組む。
- 「サイエンスパーク」や「かるちゃん net」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- 自己点検評価の実施に向け、評価方法などの検討を進める。
- 利用者からの意見・評価を幅広く集め館運営の改善に活かすため、アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチ(利用者調査)を実施する。
- 博物館協議会による外部評価の実施に向けた取組を進める。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値 (平成 27 年度)
利用者満足度	70 パーセント

1 1 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

- ・ 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- ・ 北海道博物館協会との連携により、中核的博物館として地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。

(2) 博物館交流の促進

- ・ 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。
- ・ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。
- ・ 道内の教育委員会や学校と連携した出前博物館を実施する。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値 (平成 27 年度)
道内市町村等との連携・協力件数	40 件

1 2 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信

- ・ アイヌ文化に関わる文献情報、アイヌ語及び口承文芸に関する情報、民具や伝統的生産技術に関する情報、北海道博物館所蔵の民具並びに道内市町村に所在する民具に関する情報など、ニーズの高い情報についてデータベース化に着手する。
- ・ これらの情報については、随時、ホームページなどを活用して発信する。

(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化

- ・ 北海道博物館及び道内博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータを整備し、ICTを活用した、関係機関とのより効果的なネットワークの構築に向けた取組を進める。
- ・ 多様な媒体による北海道博物館及び道内博物館の諸情報の発信に向けた取組を進める。

(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

- ・ 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物などを収集し、図書室の充実を図る。
- ・ 閲覧・複写などの各種サービスを充実させる取組を進める。
- ・ 道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援を行う。

来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目 標 値 (平成 27 年度)
写真の提供件数	100 件
レファレンス件数	800 件
アンケート、その他の利用件数	100 件

1 3 人材育成機能の強化

- (1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ
 - ・ 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れる。
 - ・ 大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラム構築に向けた取組を進める。
 - ・ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。
- (2) 外来研究員の受入
 - ・ 外部研究者や大学院生などを受け入れるための体制構築に向けた取組を進める。
- (3) 派遣研修
 - ・ 外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させる。

1 4 研究成果の発信と社会貢献

- (1) 学術刊行物などの刊行
 - ・ 『北海道博物館研究紀要（仮）』及び『アイヌ民族文化研究センター研究紀要（仮）』を刊行する。
 - ・ 大規模な企画展示の開催に合わせて展示図録を刊行する。
 - ・ 小規模な企画展示の開催に合わせて解説用冊子を刊行する。
- (2) 学会への発信
 - ・ 北海道博物館の研究成果を各種学会で発表し、学術雑誌へ投稿する。
- (3) 職員の対外貢献
 - ・ 講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。
- (4) 外部機関との事業連携
 - ・ 民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。
- (5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献
 - ・ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。
 - ・ 道の総合計画「ほっかいどう未来創造プラン」などとリンクした研究を推進する。
 - ・ 多民族・多文化共生社会、人と自然との調和のとれた社会のあり方などについてのビジョンを提言していくための取組を進める。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 27 年度）
新聞・報道対応の件数	計 180 件
学会発表の件数	
学術雑誌等への寄稿の件数	
招待講演の件数	
各種委員・共同研究員等委嘱の件数	
その他の件数	